

ないが、氏の所説には明かに二つの大なる思想の混雜が存するやうである。卽ち有機意識なるものを假定すとして、之と感情との關係の不明なる其一で、感情の根本方向は快不快なりや將た多方向なりや明かならざる其二である。氏は一面に於て有機意識の分化として感覺感情生起せりと云ひながら、他面には感情及有機感覺は有機意識なりと云つて居る。然らば感情は未だ分化せざる有機意識なるか、將た分化せる後の状態なりや不明であるといはなければならぬ。更に又感情は多種多様無限の變化あり一方向に攝すべからずと云ふを見れば、多方向説なるが如く見える。然るに快不快は恰かも明暗の如く、而してあらゆる色は皆明暗に歸せしめ得る如く、快不快はあらゆる感情の重要な方向の總名と見做すことが出來るとしたるを見れば、根本に於て一方向説なる如くにも見えなでもない。氏の所説にはかゝる思想の混雜あるにも拘はらず、兎も角感情の發生學的説明を高調し、之を有機意識とふ概念より導出せる見解は、興味ある一學説として之を紹介する價值ありと信じ、茲に其大意を傳へたる次第である。

東方亞細亞の教育に關する一

小 西 重 直

昨年は夏の末より秋の初にかけて東方露領、滿洲、支那本土及朝鮮等に亘り海路約千五百哩、陸路四千哩以上の旅行を試み、今年の四月は臺灣へも渡つて見た。本誌の委員より夏の讀物として此

等旅行中に見聞せる教育上の事實に就て雜錄欄に投稿せよとの要求を受けた。輕装涼風を求むる夏の心理に對し澁い筆にて綴れる重苦しい教育事實は如何あらんと案ずれども委員の命に忠實に服従し是に旅囊の口を開きて斷片的に其一端を述べて見やうと思ふのである。

一 浦汐の教育

露國が浦汐に對して政治的意義を發揮した顯著なる事實は千八百五十九年頃であるとのことである。即ち此年に露國の軍艦が此處に入港したのであるが其當時は浦汐は清國吉林省の一漁村であつて露國軍艦の乗組員が日常の食料品を購ふのに別に貨幣の必要がなく空罎などゝ交換したものであるとのことである。而して其翌年には少數の兵士を以て此地を占領し其翌年の千八百六十一年に清國政府と談判の結果此地は勿論烏蘇里河より東方一帯の地を割讓せしめ此地は之れより浦汐斯徳と

名けられたのである。浦汐斯徳とは東方鎮といふ意味であるといふことである。大正三年の統計によると露國人は約五萬四千餘人、支那人が二萬七千餘人以上、朝鮮人が八千人餘、日本人が千八百餘人居るのである。露人經營の學校は色々の種類に亘つて居るが小學教育は未だ十分に重んぜられて居らない様である。日露戦争の當時は露國の壯丁は其半數以上が無學であつた。夫れが戦敗の一の原因であることを自覺し一般の義務教育の必要も漸次認められて來たのであるけれども尙未だ實施に至らないのである。浦汐の小學教育も其發達に於て遺憾の點が少くないといふことは當局者との談話の中にも察することが出來た。實際の狀況に就ては丁度始業式や、新學年の授業開始當日などのものが多かりし爲め十分に視察することが困難であつたが學校によりては教案も全くないのがある。理由を聞けば初任の教師は場合によりて教

案を作るけれども教授に熟練したる教師は教案の必要がないといふて居る。而かも其學校の教師の凡てが皆熟練した教師とも思はれないのである。又或る學校では教室の塗板を生徒の正面に置かないで右か左かの角の方に置いて生徒に對して斜面になつて居るのがある。試みに後方の一方の生徒の側より塗板を見るのに其上に書てある文字が判明しなかつたり幾何形體の線の長さや角度などが妙になつて見ゆるので生徒が正しき觀念を得るとが出來ないことが分つた。是に於て塗板を角の方に斜に置くのは何にか理由があるかと尋ねて見ると別段の理由はないといふて居る。生徒の三分の一位は塗板上に書かれてあるものを正しく認識し得ないではないか。今後は正面に置き替へては如何であるかと話して見るのに校長は微笑してあれでも大抵理解が出來ると答へて居る態度など流石に大陸的氣分と見受けたり。この様に吞氣でも困る

けれども日本の或小學校の様に教案の形式などに無益の力を入れ過ぎたり、教務上左程重要ならざる雜務に過度の精神を勞せしむる様な形式に捉はれて居る状態と比較して見ると吾等にも尙反省の餘地があるのであるまいか。中學は大體獨逸の人文中學と類似し女學校も九歲頃より入學して八年間許りで卒業するのであるが日本の女學校の様に良妻賢母といふ様な主義ではなく卒業生は多く大學へ入學することを希望する。大學卒業後は良妻賢母となるものもあるであらうが女學校の教育では寧ろ人間教育であつて男子の中學と非常に異つた教育をなすことは却て不自然であるといふ意見も耳にしたのである。商業學校は其規模や設備はハルピンのよりも劣る様であるけれども日本のものに比すれば設備は立派なものである。大藏省直轄であつて日本の甲種程度のものよりは普通科にも重を置き大學との連絡もあるのである。日本

の中學と商業學校と混和した様なものである。外國語の如きも獨英を必修に佛語支那語を隨意科となし昨年より日本語も入ることになつた筈である。將來に於ける日露の經濟關係の上より見て日本の商業學校に於ても地方によりては露語を教授する必要があると思ふのである。

浦汐に於ける教育機關の中で最も羨望に堪へなかつたのは東洋學院である。新學年の授業が未だ始まらず、活動の状態を見ることの出来なかつたのは遺憾であるけれども日本語の教授スバルウエンの氏の懇切なる案内によりて日本語にて談話しながら大體の現況を知ることが出来たのである。此學校は東洋方面に於て活動する人物及東洋に關係ある事業に従事する人物を養成する目的で千八百九十九年に官立として設置されたのである。學部は日本支那部、支那朝鮮部、支那滿洲部、支那蒙古部の四部に分たれ何れも四年間の修業年限であ

る。入學資格は中學卒業以上のものである。學生は二百餘人であるが此外に別科生的に軍人の見學も多く千九百十二年に於ては陸軍將校の見學者百人以上であつた。又學生中には各官衙會社等よりの學資の給與を受くるもの少らならず。卒業生は已に一千七百人以上になつて居るとのことである。殊に其圖書館は苟くも東洋に關係ある古今の書物、東洋で出版された書物は出来る丈此を集むるといふ勢であつて随分貴重なるものもあるやうである。圖書購入の經費は一年約一萬留と稱して居る。又印刷部も有して居つて漢字の印刷職工として朝鮮人などを僱ふて居るのである。日本人の經營として此東洋學院に類似するものは上海の同文書院であつて之れが南京同文書院として生れたのは東洋學院設立の翌年であつた。同文書院で已に九百人前後の卒業生を出し支那の各地に活動して居る狀況は日本の爲め寔に喜ぶべきことである

けれども浦汐の東洋學院が政府の直轄として比較的餘裕ある經費を以て經營せらるゝのと比較して見るときは吾等は日本の政府及國民が同文書院の如き學校に對しては尙一層の同情を寄せ其發展充實を圖らしむるの必要ありと信ずるのである。又日本は近時益南洋方面に發展すべき必要を感じて來たのであるが、之れには南洋を十分に理解し其言語に通ずるは勿論南洋に關する根本的組織的知識を有する者も必要であるので教育上之れに相當する確實なる機關を設置するの必要もあるであらうと思ふ。

最後に浦汐に於ける日本人の教育は如何であらうかといふことを一言して置きたいと思ふ。日本人小學校は明治二十七年に有志の寄附によりて創立され其後漸次發展して居留民會の事業となり明治四十四年に在外指定學校の資格を得たのである。生徒は明治三十五年には僅かに五十人許りであつたが大正四年には百六十二人に増加して居る。居留民會の一ケ年の收入は一萬五千圓許りであるが丁度歲入の半以上を教育費に費やして居るのである。兒童一人につき五十四圓以上であつて日本内地の平均額に比すれば約七倍に近くなつて居る。兒童の家庭に就て見るに父兄の職業は商業三十六戸、大工三十五戸、洗濯業者二十八戸、裁縫十三戸、鍛冶十三戸、靴製造修繕十一戸、料理店七戸、ペンキ塗五戸、寫眞業五戸、理髮業三戸、時計店二戸、醫業二戸、旅館二戸といふ状態である。然し之れは浦汐に於ける日本人の職業の多少や職業別人口の比例や其順序を其儘に示しては居らぬのである。單に職業の方面より見ると洗濯業者が最も多いので之れが四十戸許りであるのである、其次が料理店の三十八戸、雜貨商の三十三戸、理髮業者の二十二戸、靴店及大工業各二十戸、金銀細工及時

計店の十八戸等である。更らに職業別人口に就て見るのに最も多いのは料理店に關係あるものであつゝ、浦沙在住の日本人全體が千八百人許りの中で四百人以上になつて居るのである。如何なる人間が海外へ出づるかも大凡推察せらるゝのである。而して小學兒童を内地に於ける地方別で見るときは長崎縣人が七十五人の多數で全兒童の殆んど半數に近い數である。兒童の出生地は日本生が八十六人、浦沙生が六十二人其他の地方で生れたものが十四人といふことになつて居る。浦沙生のものが漸次に増加して來て居るので殖民固定の狀況も察せらるゝのである。學科目等に於て内地と異なる所は露國の指示に基き尋常五年六年に於て一週三時間露國の地理及歴史を露國語にて教授することになつて居るのである。日本小學校の體操の如きは露國小學校側より賞讃せられ非常に感心して居るとのことである。さて然らば小學の卒業生は如

何なる方針を取るかといふに内地の中等學校に入學するものもあるが之れは極めて少いのである。多くは日本人經營の露語夜學校に入るか實業に就くかである。一般に英國人などは殖民地より子供を本國に送らして中學や大學を卒業せしむるものが多いけれども日本人の海外に居るものは富の程度低くして内地に子弟を留學せしむることは一般には容易のことではない。從て殖民地に於て相當の學校を要求することが英國人などよりも一層切實のものがあると思ふ。然し居留民團の財政上の困難の爲め俄に相當の學校を設立出來ざる場所が少くはないのである。國家が若し眞に日本人の海外發展を必要とするならば國費の補助を與へ補習學校又は其他の學校を起して居留民の向上を圖るべき筈のものであると信ずるのである。又小學校の如きも場合により狀況に應じ教師の俸給、校舍の建築、設備等に相當の補助を下附すべきものであ

と思ふのである。在外指定學校の資格を得る能はざる地方の如きは必要に應じて補助を與へ是れに資格を附與する様にしたのである。校舎の如きも内地に於ては左程立派のものがなくともよいが海外にありては少くも對等國民の小學校に耻ぢざる程の校舎がほしいものである。學校が完全に

なるに従い移住民の増加することは滿洲等に於ける事實が此を證明して居るのである。國家が眞に眞面目に殖民獎勵をなさんとするならば殖民の先驅として先づ完全なる教育機關を設けてやるべきである。

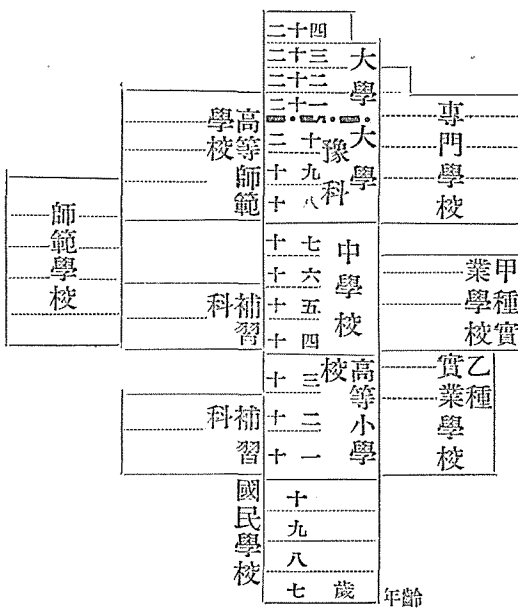
(浦鹽に於ては京大の露語講師山口氏の懇切なる御世話になり 同氏の通譯の勞によりて此地の事情に通することが出来たのである。特に是に感謝の意を表する次第である)

二 支那本土の教育

支那本土に於ける教育は第一支那人の自國民教育、第二外國人の支那人教育、第三、外國人の自

國人教育の三種類があるのである。此等に就て其一端を述べて見やうと思ふのである。

一、支那人の自國民教育 支那の教育制度は大體に於て日本の制度を參酌したものであると思ふが今其教育法令中に示してある通り圖式にて表せば次の如くである。



其一般教育の大方針として教育宗旨なる題目の下に「注重道德教育、以實利教育軍國民教育輔之更以美感教育完成其道德」と示されてある。小學校教育の方針などは非常に日本のものと類似して居るのである。即ち「小學教育以留意兒童身心之發育培養國民道德之基礎並授以生活所必需之知識技能爲宗旨」と示されてある。其他學科目の如きも日本のを參考になし教育の方法の如きも余の視察せる國立高等師範學校あたりに於ては全く日本の形を採用して居る様である。而して民國三年の統計を見るのに全國各種類の學校總數は十萬七千四百五十九校で其中三萬一千五百十七校は私立である。又學生は總數三百六十萬六千七人であつて修業年限四ヶ年の國民學校に在學の兒童數は約三百萬である。其中の十三萬三千餘人が女兒となつて居る。學齡兒童の總數は不明なるも日本内地の人口の約六倍もある人口であつて而かも就學兒童

の數は日本内地の半數に充たざる狀況であるのは國民教育の普及の點に於て如何に未だ幼稚であるかを示して居るのである。然し専門學校や大學などの高等教育は内容は兎も角其形に於ては國民教育に比して比較的普及し校數百以上に及び學生數三萬六千以上に達して居る。未開の民を導くには先づ一國の指導者となるべきものを養成せねばならぬのであるから高等の教育が比較的に先づ發達することは當然であるが一國の堅實なる發達にはどうしても國民教育によりて各個人の人格を高め國民たるの性格を練り自己の生活の獨立を圖り得るの能力を養ふことが必要である。支那に關する知識の淺き余輩が支那の將來に對して意見の出しやうもないのであるが一面には高等教育を益進めながら他面には國民教育の普及に力を入れ比較的實行し易き地方より義務教育を實行し漸次一般に就學を督勵し一般民衆の精神を改造することが出

來れば支那の面目も多少改まるの時機が来るものではあるまいかと思ふ。然し日本の如きすら國民教育の新制度を實施してから約四十餘年の歳月を費やして今日の如き普及の程度に至つたのであつて支那が日本の様になるには固より決して容易のことではないのである。支那に二十二年間布教を

げ得るやは疑問であるとしても教師の養成に大なる力を注ぐと共に漸次普通教育の普及を圖り精神的に人心の改造を促がすといふことは縱令俄かに結果が擧らぬとしても其努力そのものに於て國力發展上の價値があるではなからうか。

して居つたスミスといふ人が「支那人の特質」といふ書物を書いて居る。牽強附會の記事もあるやうであるが讀んで面白い書物である。支那の實狀と題せる最後の章に支那は朽ちたる木の様なもので彫刻を施すことが出来ない、よろしく此を切り取りて舊い株の上に新しき木を接樹せねばならない。支那は到底此を内部より改革することは出来ないと論じて居るのであるけれども教育の力によりて其舊株を内部より根柢より少しづつ改良することは絶對に絶望と見ることも出来ないであらうと思はれる。支那人自身の力によりて此を成し遂

二、外人の支那人教育 西洋人が支那人教育の爲め經營しつゝある學校は凡そ五千校以上で生徒は約十三萬と稱せられて居る。之れには基督教の教會に關係あるものと關係のないものがある。教會に關係あるものでは英米人の勢力が最も強く佛獨國之れに次ぐといふ有様であつて教育の目的は一般に基督教的指導者を養成すと稱し其高等の程度のもは各種の職業教育を與へて居るのである。北京の滙文大學、天津の新學書院、南京の金陵大學、上海のセント、ジョーンズ大學、浸禮會大學、震旦大學の如き皆此部類のものである、殊にセント、ジョーンズ大學の如きは三十七年前に

創立せられ又北京の滙文大學の如きも創立以來已に二十七年の歲月を經過して居る。此大學の學長ローリー氏は支那に在ること四十餘年といふて居るが其居室の如きは呼鈴をも用ゐず殆んど開放的であつて宗教家としての態度敬服の外はない。尙一般に宗教に關係ある教育事業の發達を圖る爲め色々の教育會が出来て居る。例へば上海に本部を置いてある支那教育會の如き其大なるものゝ一であつて新教派の人々を中心となつて活動して居るのである。教科書などを出版し、一年三回教育雜誌をも發行して居る。其他東部支那教育會、西部支那教育會、中央支那教育會などが主なるものであつて餘程組織的に發達を圖つて居る様である。

(Educational Directory of China 1915-198-136)

又宗教に關係のないものとしては四年前に上海に設立されたハーバート醫學堂や十四年前に設立された上海の獨逸醫工科學堂や、北京郊外の清華學

校など出色のものである。殊に清華學校は北京外交部の直轄であるが之れは千九百〇八年に米國政府は支那政府をして教育事業に使用せしむるの目的を以て義和團事件の償金壹千萬弗以上を支那政府に返戻した其利子によりて經營せらるゝものである。校長は支那人で少壯有爲の人材である、教師にも二十名許りの支那人が居る。米國教師が十八人で其中約半數は婦人であるけれども校内の教育は米國本位に出来て居るから自然米人教師の勢力も大なるものであらうと思はれる。教育の程度は中學校四年高等科四年凡て八年間の修業年限である、中學校一年に入學する資格に年齢は十一歳より十三歳迄の間のもので相當の學力試験を行ひ身體強壯、身分賤しからぬものを選んで居る、目下中學校、高等科共各二百名許の生徒がある。月謝は無月謝で全部寄宿舎に收容し食費、室料の全部は官給となつて居る。教育上種々新しき試を

行ひ學業の成績は日課に重を置き日課點を七十、學期試驗を三十點と見積つて居る。此等は實に採點法としては頗る教育的である。又成るべく落第生を出さぬ方針で一學科六十點以下の不合格のものは次の新學期の相當の時期に於て再試験を施し一學年の終りに於ける不合格の科目は新學年の始まる數日前に再試験を行つて居る。此等も普通教育の精神として體を得たるもので落第生を多く出して高等の學校の入學率を高めやうなどとする中學校は支那の此新式學校に對して赤面すべきものだらうと思ふ。卒業生は已に百餘名に達し成績の佳良なるものは官費にて米國の大學に留學を命ぜられ廣義の實科的方面が八十パーセント、法科文科等の如き治者道の研究者が二十パーセントの割合になつて居る。此割合は政府が米國へ留學せしむる學生の専門學科研究に對する方針になつて居るのである。此學校の卒業生が將來支那と米國との關係を密接にすることゝならば支那に於ける米國の勢力は益甚大のものとなるであらうと信ずるのである。民國三年の教育部統計書に就て見るに教育部及地方各省よりの官費留學生は英國に九十七名、佛國に七十名、米國に四十六名、獨逸に二十七名、瑞西に二名であつて歐米に留學するものは凡て二百四十人となつて居る。此を専門の學科別に見るときは最も多きは工科の百十二名で次は法科の三十三名、理科の二十七名、文科の十名、商業の九名、醫科の八名、農科の六名、陸軍四名、豫備科三十三名となつて居る。又日本へ留學するものは總計千八百二十四名で工科が三百三十名、法科が三百名、醫科が百八十八名、商業が百二十九名、師範が八十七名、農科が八十名、理科二十二名、文科十九名、豫備科六百六十九名といふことになつて居る。要するに此外尙中央政府各部よりも夫々多少の留學生が出て居るのであるが此總

計表文で見ても官費で日本に留學するものは歐米に留學するものよりも數に於て七倍以上になつて居る。將來支那文化の中心人物となるべき留學生を如何に教育すべきかは日支の關係上重大なる問題であると思ふ。尙ほ獨逸が青島に起した大學の

如きも頗る有力なるものであつたが戦争の結果今日では山東鐵道の事務所となり生徒は多く上海の獨乙醫工科學堂に移つたとのことである。

(大正五年一月太陽拙稿海外發展と教育政策參照)

三、外人の自國人教育 支那に於ける日本人の小學校は何れも相當の努力によりて相當の成績が擧つて居るのは氣強いことである。然し氣の毒に感じたのは母國の教育思想界との連絡が十分でないことである。獨逸の如きは數年前より海外に於ける獨逸人教育の發達を圖る爲め世界に於ける獨乙の殖民地の獨乙人教育に従事する者より成立する統一的機關を設け機關雜誌までも發行して居る

のであるのに日本はまだ其處までいつて居らないのである。朝鮮や臺灣や滿洲には、夫々教育會もあり雜誌も出來て居るけれども夫れ以外は恐らく斯の如き統一連結を圖る有力なる機關がないだらうと思ふ。

西洋人が其子弟を教育して居る學校も出來る丈視察したが感服出來ないものが多い。中には學校が初まつて三週間にもなるのに父母と共に避暑にいつてまだ出席せぬといふので全校生徒の三分の一許りが缺席の場所もあつた位である。多少成績を擧げて居ると思ふのは上海の共同租界の學校であつて殊に感心したのは青島の獨乙の實科中學の教育であつた。夫れは本國の實科中學の課程の外に尙豫備級を設け日本では、小學部と中學部とを併置せる様なものとなつて居る。戦争前には二百五十人も生徒が居つたのである戦争後は減じて五六十名になり學校は日本の爲めに取り上げられ

今は七八百人の兒童を收容して居る日本小學校となつて居る。而して彼等は狭い家に退去して尙教育を續けて居つて校長の外三人許りの教師でやつて居る。經費は天津其他の地方に在任して居る獨乙人の寄附などもあるが教師は殆んど無報酬で働いて居るといふて居つた。而かも其教授法は獨乙本國に於て見る如き眞面目な練習的なやり方で生徒の頭を鍛へて居つた。今は日本の小學校となつて居る彼等の戦前の學校に行つて見ると屋内體操場には獨乙魂を鍊る様な色々な格言などが板に書かれて壁に懸けられてあつて、尙戦前の教育の面影を察することが出來た。

三 信念と教育

旅行よりの獲物は色々な方面に於て少くなかつたのであるが兼ねて度々自分も考へ、人よりも聞き、人にも話をしたことのある信念と教育との關係に就て切實に感じたことなど其一として數ふる

ことが出來る。吾々は自己の思想や行爲の統一の働の主體が自己自身であり其思想や行爲に毫末の誤りがなく、道德上其他の規範の拘束を進んで自發的に求めながら而かも夫れは自分に取りては拘束ではなく絶對自由の境地であるとの信念を得ることが人間として價值あるものであるとするならば教育上の目的に於ても斯の如き絶對自由の信念を取り扱はねばならないのであつて教育は或意味に於ては斯の如き絶對自由の信念を啓發し發達するの働であるともいはれるのである。而して此を教師の例より見れば此の如き信念を自分に體認し此れを人格的に生徒に傳達する所に教師としての生命が存すると見ることが出來るのである。宗教家が其布教に於て成效するのは宗教的の信念が厚く信念の擁護と傳達の爲めには何ものをも犠牲にするの意氣があるからであらうと思はる。千八百六十七年即日本の慶應三年より二十餘年の間

支那の温州を中心として布教に従事せるストット夫妻の如きも斯かる例に引かるゝ資格があるものと思はれる。ストットはスコットランドの人で十九歳の時に左脚を傷け遂に此を切斷されてしまつた不具の宣教師である。其妻も信仰の堅い婦人で夫婦で布教に努力したのであるが夫は二十三年間支那に留り、妻は病める夫を看護して一度故國に歸り夫の死後再び支那に渡り前後二十六年の間布教に従事して居る。此婦人の著 *Twenty-Six years of Missionary work in China by Grace Stott 1897* は實に二十餘年の間如何に夫婦のものが支那民族に福音を傳ふるに努力したかを語つて居るのである。温州に落ち付いたばかりの時に暴徒が門前に集りて危害を加へんとしたことがある。ストットは決然門外に出て、余は汝等の見る如く一脚を失つた不具者なり、今此場合逃げ行くことも出來ず汝等若し余を殺さば汝等も亦禍を受けん。余を殺すも生かすも汝等の勝手なるべきも余は兎も角此地に來れり。余は此地に留まるべしと力強く語るや暴徒は僅かに石を投じて散ぜりといふが如き記事も此書の中に見出すことが出来る。或は西洋人は學校を起し子供を集めて居るが夫れは子供の生膽を取つて藥にする爲めであるといふ様な流言の爲めに非常に困難をしたことなども述べて居る。然し凡ての困難凡ての迫害、凡ての障害は信仰の熱の前には盡く溶解してしまつて彼等は布教師として大なる成效を爲したのである。其他昔和蘭人が臺灣の生蕃を教化したのも厚き宗教上の信仰の力が大に働いて居つた。明治四年頃に臺灣に渡つて廿三年間布教に従事し臺灣の北部に於て今尙尊敬の情を絶たしめざるマツケイの如きも矢張ストットなどに劣らざる宣教師中の優勝者である。教師は單に知識の傳授者でない限り矢張一定の人生觀や道德思想や、一定の教育思想に對する確固たる信

念を有し優勝なる宣教師の如く此信念の下に奮闘 此種の人物であると思ふのである。
すべきものであつて古來優勝なる教育家は多くは

リッケルトの歴史學の觀念に就て

安部晴之助

從來經驗科學を分類して、自然科學と精神科學も、行論の順序として、必要な點だけを極めて簡
とに別けるのが普通であつたが、獨逸西南派は此 單に次に摘録する事とする。

の分類法の無意味な事を指摘して、之に代ふるに 一般に經驗科學は吾人が日常經驗する現實の世
自然科學と歴史學との分類法を以てした。從來の 界を捕捉する事を其の職能とする。然るに、現實
分類法は主として學問の對象の差別に基いたもの の世界は、其の外延に於ても亦其の内包に於ても
であつたが、學問の對象の差別からして學問其者 無限の雜多である。此の無限の世界を吾人の有限
の性質に差別は生じない。故に學問の分類は寧ろ の精神が捕捉するが爲には、吾人の精神は一定の
其の目的、方法の差別に依るべきである、と。是 方法に依つて現實を變形し、其の雜多性を克服し
れが此派の根本思想であつて、之を詳論したのは なければならぬ。即ち吾人は概念に依つて現實を
リッケルトである。氏の説は既に屢々世に紹介せ 一般化し、其の雜多を統一するのである。是れ則
られたから、茲に之を反覆する事はしないけれど ち自然科學的方法である。従つて自然科學的世界